

## 台風情報の見方

### 1. ねらい

大阪に気象災害をもたらす主な要因は台風である。台風に伴い気象台から出される気象情報を的確に受け取ることができるようにその情報のとらえ方などについて述べる。

### 2. 台風の定義

西部太平洋で最大風速が17m/s以上になった熱帯低気圧(熱帯にできる低気圧で、大気の温度差が原因でできる前線を伴わない)を台風と呼ぶ。同じ仲間にハリケーンなどがある。

図1・図2に示すように風速から台風の強さと大きさが定義されている。

最大風速	表現
17m/s 以上 33m/s 未満	台風
33m/s 以上 44m/s 未満	強い台風
44m/s 以上 54m/s 未満	非常に強い台風
54m/s 以上	猛烈な台風

図1 台風の強さ

平均風速が15m/s以上の強風域の半径	表現
500km 未満	台風
500km 以上 800km 未満	大型の(大きい)台風
800km 以上	超大型の(非常に大きい)台風

図2 台風の大きさ

### 3. 台風の一般的な進路

台風は季節によっておおよその進路が決まっている。小笠原高気圧やジェット気流の配置・強さなどが関連している。夏から秋にかけて日本列島に上陸することが多い(図3)。台風それ自身はほとんど自力では動かず、ヨットと同じように周りの風で移動している。

台風の年間の発生数の平年値(30年平均)は約27個、そのうち3個近くが日本に上陸している。

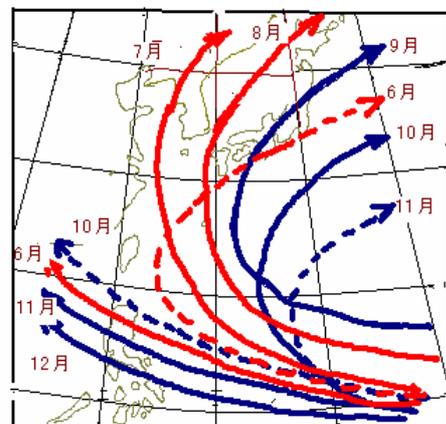


図3 台風の月ごとの主要経路

### 4. 台風の進路予報図の見方

台風の進路予報図(図4)にでてくる用語は以下のように定義されている。台風の進路予報は現在でも困難な予報の一つである。

強風域: 平均風速の最大値が15m/s以上の領域

暴風域: 平均風速の最大値が25m/s以上の領域

予報円: 予報期間に台風の中心が70%の確率で進むと予想される領域

暴風警戒域: 台風の中心が予報円内に入ったときに、暴風域に入ると予想される領域

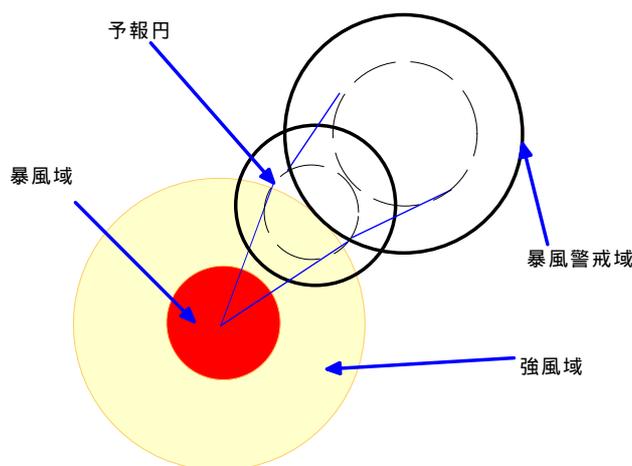


図4 台風の進路予報図の例

### 5. 台風災害についての一般的な注意事項

台風は強い風と多量の雨をもたらす、気象災害を発生することが多い。その強さの度合いにより「雨台風」や「風台風」と呼ばれることが多い。風は一般的には台風の進行方向の右側のほうが強いことが多い。雨は台風の中心付近ばかりではなく、かなり離れたところでも気流の影響で大雨をもたらすこともある。

また、大阪湾などでは過去において高潮で大きな被害を受けた。高潮の成因は気圧の低下に伴う海面の上昇、強風に伴う海水の吹き寄せ、湾の形などである。大阪湾では大阪の西側を台風が通過したときに、南よりの強風が吹くので高潮が起こりやすい。

### 6. 大阪の気象警報・注意報の発令区分

気象庁では行政サービスの向上として、気象警報・気象注意報の発令の地域区分が細分化した。現在、大阪府内では以下のような地域区分で発令されている。「北大阪」「大阪市」「東部大阪」「泉州」「南河内」の5区分である。



図5 大阪府内の地域区分

### 7. 大阪の気象警報の基準

1988年4月に改定された、大阪管区気象台によって大阪府に発令される気象警報の基準を以下に示す。この基準は各都道府県で異なっている。

表1 大阪での気象警報の基準

警 報 名		基 準
暴風 (平均風速)	陸上	20m/s 以上
	海上	25m/s 以上
暴風雪 (平均風速)	陸上	20m/s 以上
	海上	25m/s 以上 雪を伴う
波浪 (有義波高)		3.0m 以上
高潮 (潮位 T.P 上)		2.2m 以上
大雨 (雨量)	1時間 雨量	40mm 以上 ただし、総雨量 100mm以上
	3時間 雨量	70mm 以上 ただし、総雨量 100mm以上
	24時間 雨量	平地 150mm 以上 山地 200mm以上
洪水 (雨量)	1時間 雨量	40mm 以上 ただし、総雨量 100mm以上
	3時間 雨量	70mm 以上 ただし、総雨量 100mm以上
	24時間 雨量	平地 150mm 以上 山地 200mm以上
大雪 (24時間 降雪の深さ)	平地	20cm 以上
	山地	40cm 以上

平均風速：10分間平均した風速

有義波高：観測された波のうち高い順に選ばれた  
1/3を平均した波の高さ

潮位 T.P 上：T.P(東京湾中等潮位)という陸地の  
標高の基準面から測った潮位

総雨量：雨の降り始めから降り終わりまでの総量

〔佐藤昇〕